

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「人口減少社会こそ神の手によるもの」

資本主義社会の根幹には市場経済が機能すること、教科書的には神の見えざる手の存在が不可欠となります。一方では「市場に神の手など存在しない」との主張もあり、企業経営にたずさわっていると後者に近い考えを持つことになるのです。

サービス価格が需要と供給により適正価格に収束するというのは稀なことです。現実には企業間の激しい競争により「一番苦しい値段を提示する企業」に周りが付き合わされるのです。現代のプライスリーダーは最大の供給力を持つ企業ではありません。企業規模の大小を問わない価格破壊者なのです。

2019年には出生数が90万人を割り込みました。すでに人口減少社会に突入しています。短期的には労働人口の減少が将来の税収激減を連想させ、長期的には人口の総体も縮小し経済規模の縮小を招いて日本沈没になる、とするストーリーには十分に説得力があります。

資源が全く無く、狭小な国土でも人口だけは増え続けた時代に、国民を飢えさせないために戦争までしたのですから、先人たちは今の状況をどう見るでしょう。「物が安く手に入り、人口が減ってゆく現在は理想形じゃないか」と諭されるような気がします。

戦後の常識であった学歴社会は確実に緩和され、人々は競わないことを競うようになりました。これも人口減少社会の副産物でしょう。「人口減少社会こそ神の手によるもの」と言えば皮肉に聞こえる世代もまた時間とともに減っていくことでしょう。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。当社は2020年3月末まで、今年度卒業生の採用活動を行います。お問い合わせをお待ちしております。

松本 隆一郎